



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場会社名 日本ケミカルリサーチ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4552 URL http://www.jcrpharm.co.jp
 代表者 (役職名)取締役会長兼社長 (氏名)芦田 信
 問合せ先責任者 (役職名)経理部長 (氏名)葉口 明宏 (TEL)0797(32)8591
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日 配当支払開始予定日 平成25年12月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	7,344	10.8	667	78.4	690	83.1	438	108.8
25年3月期第2四半期	6,625	3.8	374	△34.3	377	△27.9	210	△35.3

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 639百万円(247.2%) 25年3月期第2四半期 184百万円(0.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	13.81	13.72
25年3月期第2四半期	6.62	6.60

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	32,144	23,999	74.2
25年3月期	31,286	23,496	74.7

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 23,840百万円 25年3月期 23,368百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
26年3月期	—	7.00			
26年3月期(予想)			—	10.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有
 期末配当金(予想)の内訳 普通配当 7円00銭 記念配当 3円00銭

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,400	9.2	1,460	26.9	1,460	26.3	1,000	36.9	31.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 —社(社名) — 、除外 —社(社名) —

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	32,421,577	25年3月期	32,421,577
----------	------------	--------	------------

- ② 期末自己株式数

26年3月期2Q	646,178	25年3月期	665,658
----------	---------	--------	---------

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	31,770,153	25年3月期2Q	31,717,740
----------	------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
4. その他	11
研究開発品目	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の概況は次のとおりであります。

主力製品であるヒト成長ホルモン製剤「グロウジェクト」は、昨年度における新型電動式注入器「グロウジェクター2」の発売および「子宮内発育遅延性低身長症」の効能追加を契機として販売数量の増加が鮮明となり、当第2四半期累計期間におきましても引続き順調に売上高を伸ばさせました。また、バイオ後続品である腎性貧血治療薬「エポエチンアルファBS」につきましても、効果ならびに品質面における同等性の認知が浸透するとともに、包括医療制度が実施されている透析医療分野における経済性が注目され、バイオ後続品のニーズが高まったことにより順調に売上高を伸ばしております。

研究開発面におきましては、日本初の細胞性医薬品となるヒト間葉系幹細胞(MSC)の移植片対宿主病(GVHD)を対象とした第Ⅱ/Ⅲ相試験が順調に進捗していることを踏まえ、平成25年度中の製造販売承認申請を目指して準備を進めております。また、腎性貧血治療薬エリスロポエチン製剤に関して、グラクソ・スミスクライングループから海外での開発・販売権に関する権利の返還を受けて新たな検討を進める一方で、キッセイ薬品工業(株)との間で持続型赤血球造血刺激因子製剤ダルベポエチンアルファのバイオ後続品の共同研究開発契約を締結いたしました。

これらの結果、主力製品である「グロウジェクト」および「エポエチンアルファBS」の売上高はそれぞれ47億5百万円(前年同期比4億43百万円増)、15億21百万円(前年同期比4億57百万円増)となりました。このほか、尿由来製品群および契約金収入も前年同期比増収となった一方、抗がん剤原体の売上高は減収となり、医薬品事業の売上高は71億16百万円(前年同期比7億12百万円増)となり、医療用・研究用機器事業の売上高2億27百万円(前年同期比5百万円増)を合わせた当社グループ全体の売上高は73億44百万円(前年同期比7億18百万円増)となりました。

利益面におきましては、主として上記の増収効果により、営業利益は6億67百万円(前年同期比2億93百万円増)、経常利益は6億90百万円(前年同期比3億13百万円増)、四半期純利益は4億38百万円(前年同期比2億28百万円増)となりました。なお、研究開発費は10億34百万円(前年同期比44百万円増)となっております。

なお、(株)東京証券取引所より承認をいただき、平成25年11月5日をもちまして当社株式が東京証券取引所市場第二部から同市場第一部銘柄に指定されることとなりました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

また、当社は、来たる平成26年1月1日をもちまして、社名を日本ケミカルリサーチ株式会社からJCRファーマ株式会社に変更いたします。皆様のご期待にお応えすべく、役職員一丸となって更なる企業価値の向上を目指す所存でございますので、引続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は321億44百万円（前連結会計年度末比8億57百万円増）、負債合計は81億45百万円（前連結会計年度末比3億55百万円増）、純資産合計は239億99百万円（前連結会計年度末比5億2百万円増）となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金が減少した一方で有価証券が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ6億24百万円増加して166億10百万円となりました。固定資産につきましては、投資有価証券および長期前払費用が減少した一方で新原薬工場に関する建設仮勘定が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ2億33百万円増加して155億34百万円となりました。

流動負債は、短期借入金および買掛金が減少した一方で未払金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1億98百万円増加して58億24百万円となりました。固定負債は、リース債務が減少した一方で、長期借入金、長期繰延税金負債および退職給付引当金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1億56百万円増加して23億20百万円となりました。

純資産につきましては、配当金の支払いがあった一方、四半期純利益の計上およびその他の包括利益累計額の増加などにより、前連結会計年度末に比べ5億2百万円増加して239億99百万円となりました。

これらの結果、第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント減少して74.2%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ14億9百万円増加して、55億58百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況および主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、25億9百万円（前年同期比13億46百万円の収入増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上額6億74百万円、減価償却費の計上額4億53百万円、売上債権の減少額6億97百万円、たな卸資産の減少額2億76百万円、未収入金の減少額2億89百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、8億8百万円（前年同期比8億45百万円の支出増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、3億38百万円（前年同期比5億12百万円の支出増）となりました。これは主に、長期借入れによる収入3億円があった一方で、短期借入金の純減額2億10百万円、配当金の支払1億90百万円、リース債務の返済による支出1億22百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想に関しましては、平成25年7月26日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、本日付「配当予想の修正（記念配当）に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、平成26年3月期の期末配当予想を1株当たり7円から1株当たり10円（うち記念配当3円）に修正しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	822,405	950,545
受取手形及び売掛金	4,900,282	4,202,904
有価証券	3,869,523	5,652,406
商品及び製品	1,313,365	1,555,156
仕掛品	990,782	1,161,474
原材料及び貯蔵品	2,686,008	1,981,448
その他	1,403,526	1,106,288
貸倒引当金	△80	△20
流動資産合計	15,985,814	16,610,204
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,280,499	3,294,241
土地	3,602,773	3,602,773
建設仮勘定	1,180,646	1,850,076
その他(純額)	2,303,162	2,210,413
有形固定資産合計	10,367,081	10,957,504
無形固定資産		
投資その他の資産	78,787	65,757
投資有価証券	3,533,602	3,276,918
その他	1,530,531	1,443,680
貸倒引当金	△208,837	△209,337
投資その他の資産合計	4,855,296	4,511,262
固定資産合計	15,301,165	15,534,523
資産合計	31,286,980	32,144,728
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	735,632	664,158
短期借入金	2,000,600	1,858,600
未払法人税等	308,755	305,425
賞与引当金	314,869	426,590
役員賞与引当金	78,500	39,250
その他	2,187,623	2,530,734
流動負債合計	5,625,981	5,824,758
固定負債		
長期借入金	871,800	972,500
退職給付引当金	193,376	261,606
その他	1,099,227	1,086,692
固定負債合計	2,164,403	2,320,798
負債合計	7,790,384	8,145,556

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,061,866	9,061,866
資本剰余金	10,788,366	10,796,211
利益剰余金	3,562,042	3,810,208
自己株式	△544,519	△528,618
株主資本合計	22,867,755	23,139,668
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	404,988	547,619
繰延ヘッジ損益	12,529	10,159
為替換算調整勘定	82,759	143,018
その他の包括利益累計額合計	500,277	700,797
新株予約権	128,102	158,173
少数株主持分	458	531
純資産合計	23,496,595	23,999,171
負債純資産合計	31,286,980	32,144,728

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	6,625,830	7,344,532
売上原価	2,391,363	2,587,678
売上総利益	4,234,467	4,756,853
販売費及び一般管理費		
販売費及び一般管理費合計	3,860,226	4,089,066
営業利益	374,240	667,787
営業外収益		
受取利息	17,852	16,742
受取配当金	10,187	10,424
為替差益	—	13,080
その他	15,253	13,764
営業外収益合計	43,293	54,011
営業外費用		
支払利息	25,195	22,322
為替差損	210	—
持分法による投資損失	10,689	3,142
その他	4,270	5,723
営業外費用合計	40,365	31,187
経常利益	377,169	690,611
特別損失		
固定資産処分損	8,795	11,915
その他	—	4,218
特別損失合計	8,795	16,133
税金等調整前四半期純利益	368,373	674,478
法人税、住民税及び事業税	178,030	273,526
法人税等調整額	△19,825	△37,822
法人税等合計	158,205	235,703
少数株主損益調整前四半期純利益	210,168	438,774
少数株主利益	55	72
四半期純利益	210,112	438,702

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	210,168	438,774
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30,932	142,631
繰延ヘッジ損益	965	△2,370
為替換算調整勘定	3,918	60,259
その他の包括利益合計	△26,048	200,519
四半期包括利益	184,119	639,294
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	184,064	639,221
少数株主に係る四半期包括利益	55	72

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	368,373	674,478
減価償却費	480,552	453,609
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△188	440
賞与引当金の増減額(△は減少)	56,902	111,721
受取利息及び受取配当金	△28,040	△27,167
支払利息	25,195	22,322
為替差損益(△は益)	48	△144
持分法による投資損益(△は益)	10,689	3,142
売上債権の増減額(△は増加)	113,357	697,378
未収入金の増減額(△は増加)	△170,124	289,648
たな卸資産の増減額(△は増加)	△272,845	276,092
長期前払費用の増減額(△は増加)	135,921	150,761
仕入債務の増減額(△は減少)	603,796	△71,474
未払金の増減額(△は減少)	36,872	56,563
その他	△96,866	133,241
小計	1,263,643	2,770,613
利息及び配当金の受取額	37,343	34,536
利息の支払額	△25,536	△22,578
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△111,650	△272,683
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,163,798	2,509,888
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	100,000	—
有価証券の売却及び償還による収入	500,341	200,197
有形固定資産の取得による支出	△250,196	△779,540
投資有価証券の取得による支出	△308,156	△266,634
その他	△5,050	37,681
投資活動によるキャッシュ・フロー	36,937	△808,295
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△212,000	△210,000
長期借入れによる収入	800,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△97,900	△131,300
リース債務の返済による支出	△140,077	△122,075
自己株式の純増減額(△は増加)	14,890	15,510
配当金の支払額	△190,672	△190,488
財務活動によるキャッシュ・フロー	174,241	△338,353
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,880	45,902
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,378,858	1,409,140
現金及び現金同等物の期首残高	2,865,105	4,148,901
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,243,963	5,558,041

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

4. その他

研究開発品目

1. 遺伝子組換え医薬品

開発番号（一般名）	開発段階	適応症等
		備考
J R - 0 4 1 (遺伝子組換え卵胞刺激ホルモン)	臨床 第Ⅱ/Ⅲ相試験 準備中	不妊治療 完全無血清培養技術による生産 あすか製薬株式会社へ導出
J R - 0 1 3 - s c (遺伝子組換えエリスロポエチン)	臨床 第Ⅰ相試験	腎性貧血、自己血貯血 高単位製剤 キッセイ薬品工業(株)と共同開発
J R - 1 3 1 (遺伝子組換えダルベポエチン)	前臨床	腎性貧血 完全無血清培養技術による生産 キッセイ薬品工業(株)と共同開発
J R - 0 3 2 (遺伝子組換え イズロネート-2-スルファターゼ)	国際共同治験 準備中	ハンター症候群（ライソゾーム病） 酵素補充療法 完全無血清培養技術による生産 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発
J R - 0 5 1 (遺伝子組換えα-ガラクトシダーゼA)	国際共同治験 準備中	ファブリー病（ライソゾーム病） 酵素補充療法 完全無血清培養技術による生産 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発
J R - 1 2 1 (遺伝子組換えα-ガラクトシダーゼA +ミガラスタ塩酸塩)	前臨床	ファブリー病（ライソゾーム病） J R - 0 5 1とミガラスタ塩酸塩（米アマカス・セラ ピューティックス社）との配合剤 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発
J R - 1 0 1 (遺伝子組換えグルコセレブロシダーゼ)	前臨床	ゴーシェ病（ライソゾーム病） 酵素補充療法 完全無血清培養技術による生産 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発

(語句の説明)

完全無血清培養： 遺伝子組換え医薬品の培養工程においては、一般的に細胞を増殖させるためにウシ血清が用いられる。完全無血清培養は培養過程でそれらの血清を一切使わないで培養すること。従って、ウシ血清を含まないため精製工程が簡素化され高生産性が期待できる。

ライソゾーム病： ライソゾームとは細胞内にある種々の代謝酵素を有する器官のことで、この中の特定の酵素が欠損して代謝されるべき物質が分解されずに蓄積することにより種々の症状を呈する疾患。欠損している酵素の種類により種々の疾患があり、現在ハンター症候群、ファブリー病を含め約30種類が知られているが、いずれの疾患も患者数は少ない。

2. 細胞性医薬品

開発番号（利用細胞名）	開発段階	適応症等
		備考
J R - 0 3 1 (ヒト間葉系幹細胞)	臨床 第Ⅱ/Ⅲ相試験	骨髄移植に代表される造血幹細胞移植時の合併症である移植片対宿主病（GVHD）の抑制 米国オサイリス・セラピューティックス社より技術導入 他家由来ヒト間葉系幹細胞の利用

(注) 平成25年10月にオサイリス・セラピューティックス社がヒト間葉系幹細胞に関する権利をメゾプラスト社(豪)に譲渡したため、当社の保有する権利のライセンサーも同社に変わっております。

(語句の説明)

ヒト間葉系幹細胞： 主に骨髄中に存在するiPS細胞やES細胞と同様の未分化な細胞。骨、軟骨、脂肪、筋肉など様々な細胞系に分化する能力を持つ。患者自身の間葉系幹細胞を利用するのではなく、健康人から採取したものを培養して薬として不特定多数の患者に投与できる。免疫調節機能を有するため、免疫が関与する様々な疾患に有効な可能性がある。

GVHD： 造血幹細胞移植などでドナーから移植された臓器の免疫担当細胞が、移植を受けた患者の組織を異物とみなして攻撃する病態で、体内に入ってきたものを異物とみなして攻撃する通常の免疫反応（拒絶など）と裏返しの反応である。造血幹細胞移植においては最も重篤な合併症の1つである。